

逗子の景観まちづくり

瓦版 第四十九号

平成二十七年十二月二日

編集 逗子市環境都市部まちづくり課

協力 NPO法人逗子の文化をつなぎ広め深める会

募集 逗子の景観スケッチや六百字以内の景観に関するコラム等を募集しています。

二四九・八六八六

逗子市逗子五丁目二番十六号

「逗子市まちづくり課 瓦版係」

電話 〇四六・八七三・一一一一

ファックス 〇四六・八七三・四五二〇

machi@city.zushi.kanagawa.jp

「神武寺から海宝院へ」

神武寺からの沼間参道は舗装されており、楽に歩けるので、下山路としてよく利用されています。鎌倉時代に天台宗から日蓮宗に改宗した法勝寺脇の四つ角を直進し、横須賀線の踏切を渡れば、前方に五霊神社の「鎮守の森」



「神武寺」 絵 竹林 久知

が見えてきます。

先程の四つ角を直進せず右折すれば、「寺道」と呼ばれる道に出ます。明治政府の神仏分離令の発布まで、沼間村の鎮守・五霊神社を管轄する別当寺であった真言宗の光照寺はすぐそこです。

このあたりの民家のただすまいや、すっきり葉を落した※木守柿（こもりがき）の青空に映える姿は、おだやかな小さな幸を感じます。この後、山茶花、水仙が咲き、梅の花が咲くころまでは、ことに静かに私達を迎えてくれます。ひと休みできる甘味屋か、蕎麦屋があれば、最高だが…。

五分も歩かない内に室町時代の典型的な禅宗様式の四脚門が石畳に構えている曹洞宗海宝院に着きます。一五九十年徳川家康が関東を治めるため、三浦半島の代官頭として長谷川長綱を任じました。この寺は長綱が創建しました。寺領十八石の御朱印を賜り、五石にとどまった神武寺を圧して栄えたと思われれます。実際は古くからあった神武寺を監視するためとも

言われています。

「神武寺、光照寺、海宝院は時の政治に翻弄されてきたこと」、「五、六千年前はこの一帯は海だったこと」を思いながら、JR東逗子駅へと向かうおよそ一時間の散歩です。

文 北川 雄平

※木守柿とは、来年も良く実るようにとのまじないで、木の先端に一つ二つ取り残しておく柿の実



「海宝院の四脚門」 絵 吉澤 富雄

逗子の景観を考える vol.17

コミュニティ パークは大人の 休日



- 「境内」という響きが好きだ。
- 逗子の中心部で「境内」と言えば、駅からほど近いにもかかわらず、豊かな緑をたたえる亀岡八幡宮。ここで開催される「逗子コミュニティパーク」は、この11月で第22回を迎えた。
- その起源はいまから11年前にさかのぼる。2004年11月、「逗子市まちづくり基本計画」を市民にレビューする場として開かれたのがはじまり。現在のイベント形式に馴染みの方には意外に映るかもしれないが、当初はお堅い成りたちの企画であった。
- 以降、この境内で、春秋の年2回開催され続けているのだが、新緑の溢れ来る5月、大銀杏の黄金色に輝く11月は、ともに境内の魅力が見事に結実する季節。心地よい空間は自ずと人

- を呼び寄せ「コミュニティ」の産まれる土壌となる。
- 回を重ねても変わらないテーマは「大人の休日」。市中選りすぐりの出店によって構成される会場。快適で潤いのある屋外空間を演出するその境内の中心には、ウッドデッキのステージが配置され、JAZZ やボサノバといった大人のステージプログラムが1日中つづく。もちろんその起源となるまちづくりに触れる企画も欠かさない。
- ワイングラスを傾けながら、住み甲斐あるこの街の縮図を、感じて頂ければ幸甚である。

岡田謙一郎

(逗子コミュニティパーク実行委員長)

私の逗子の歩き方 ~歴史を巡る~

山に囲まれた逗子の中でも、特に緑が濃く感じる東逗子。緑に包まれた逗子の歴史を巡り歩きましょう。

四脚門は、室町時代の様式の貴重な門



海宝院

山岳信仰の面影を残し、切通しの岩肌には珍しいイワタバコも見られる



神武寺

田越川の畔に位置している真言宗のお寺



光照寺

樹齢500年を超えるイチョウの大木が存在感を放つ



五霊神社

瓦版の編集担当は 逗子市環境都市部まちづくり課

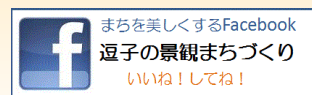
電話：046-873-1111 FAX：046-873-4520

Mail：machi@city.zushi.kanagawa.jp

逗子の景観まちづくり

検索

クリック！



☆瓦版のバックナンバーは逗子市庁舎一階、まちづくり課窓口、市民交流センターに配架しています。逗子市HP、逗子の景観まちづくりフェイスブックにもアップしていますのでご覧ください。